

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100288		
法人名	有限会社 アテネ		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	大分市大字駕野1183番地1		
自己評価作成日	平成28年5月27日	評価結果市町村受理日	平成28年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=1&JigyosyoCd=4490100288-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館 1F
訪問調査日	平成28年6月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、大分市中心部から南南東方向6kmに位置し、近隣には昭和40年代から造成された住宅地が多数存在します。その住宅地にて生活されてきた第一世代の皆様が住み慣れた地域を離れることなく、今まで通りの暮らしを送れるステージとなれることを職員一同目指しています。日々、ご利用者様、ご家族様に寄り添う介護を行い、地域の皆様とのお近所づきあいの出来る開かれた施設であり続けるよう努力しております。

事業所はグループホーム開設5年目を迎える中で、地域の中で認知度が上がっていることが、運営推進会議の中から伺えます。会議の出席者には地域の方が多く、地域とのつながりも良いと伺えます。立地場所は住宅地に隣接した環境の中で近くには公園や商業施設があり、買い物や散歩などの外出に出かける環境が整っており、グループホーム側も環境を生かして外出の機会を作っています。高齢者の権利擁護についての取り組みも積極的に行なわれています。中度から重度の認知症の利用者への対応に関しては、職員間で統一した対応方法を実施し、連携を図りながら対応をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は利用者様を人生の先輩と敬い、礼節と尊厳をもって接している。また、利用者様と職員が生涯の家族になれるよう努めている。	理念はホールに掲示され、職員や来訪者が何時でも見られる状況で職員の方も理念について理解しており意思統一が図られています。接遇に関しても理念を根拠に実施されています。	開設当初から理念の変更がないため、今までの状況や現在の状況を踏まえた理念の見直しを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や買い物を通じ、顔なじみになれるよう努めている。施設のイベント(夏祭り等)への、地域の方の参加も増えている。	近隣が住宅街や商業施設に接しているため、散歩をすれば近所の方に声をかけられたりして良好な関係を築かれています。買い物も利用者と出かけ自己選択、自己決定を積極的に促されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の会合にて認知症や施設の役割についての理解を深めていただき、支援の輪を広げるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各方面から毎回多数の参加を頂き、活発な協議もおこなっている。そこで出された意見を取り入れ、サービスの向上にも繋げている。	近隣地区の自治会長、民生委員など多数の方が参加され2か月に1度実施されています。会議を通して介護保険制度に関する説明などを実施し出席者の教養を深める場にもなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは事あるごとに連携をはかり、相談、助言を頂いている。市開催の研修等には、積極的に参加するよう努めている。	グループホーム内での疑義事項については、行政に質問をして助言や指導を受けています。運営推進会議には常に行政機関が参加して情報交換の場としています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を必要としない介護方法の追求を徹底。言葉遣いにも留意し、精神的な苦痛も与えることの無いよう、常日頃より職員への意識づけをしている。	日頃から職員に対し身体拘束ゼロを実践するように施設内研修を通じて実施されています。センサーマットや4点柵などは使用しないようにされています。反面リスクもあることを入居時に説明されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設において虐待は絶対にないを合言葉に、職員同士、お互いに鏡となり、注意喚起している。また虐待につながるストレスや不満の排除にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方の必要に応じ、市担当者をはじめとする関係者と話し合い、権利擁護や成年後見制度の活用の有無を検討する支援をおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は施設長または管理者により、十分な説明後、不安や疑問に答え理解、納得された上、署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言いづらい意見、不満、苦情も常に正しく把握出来るよう、利用者様やご家族の言葉や態度から、その思いを察するよう、職員一同、努めている。	苦情や要望があれば、管理者や職員と検討し改善できる部分は改善し当事者に報告しています。グループホームのみで対応できない内容の場合は行政機関に相談するようにされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、毎月の会議の進行役を交代制にすることで、もれなく聞き取れるよう工夫している。また、これらの意見は毎月の全体会議で検討し運営に反映するよう努めている。	職員会議や個々の職員との面談の機会を利用して意見を収集するようにしています。また職場環境が良いケアを提供できるという考えから、管理者や職員が意見交換しやすい環境を作られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境にも配慮し、勤務状況が負担とならないよう努めている。また各自の努力や実績を正しく給与に反映させ、向上心を持ち働けるような条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の教育係を全職員が経験するシステムにて、教育係の職員も、自己の介護をチェック出来るよう工夫している。また外部の研修を受けやすいような勤務体制作りにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	より良い施設を目指すためにも他施設との交流をはかり、交換実習の取り組みも積極的に行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて本人の思いや心身状態の観察、把握に努め、全職員が、その情報を共有出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や、今までのサービスの利用状況、これまでの経緯をゆっくりと聞き、今後のサービスに反映させると共に、何時でも意見や要望を出しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族も含め話合った結果、「その時」必要なサービスであれば、既成のサービス以外でも、同意の上、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩として敬いながら、一つの大きな「生涯家族」となれるような介護を目指しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、連絡時には、現在の状況や様子を報告。施設のイベント等への参加を通じ、継続した家族関係を過ごして頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、連絡時には、現在の状況や様子を報告。施設のイベント等への参加を通じ、継続した家族関係を過ごして頂けるよう努めている。	比較的面会が多く、家族と会う機会が多いため会話を通じて情報交換されています。遠方の家族に関しては、手紙等で近況報告をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	面会、連絡時には、現在の状況や様子を報告。施設のイベント等への参加を通じ、継続した家族関係を過ごして頂けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時の情報提供は勿論、その後の様子等を機会あるごとに伺うようにしている。また、直接の要請があれば相談や支援にも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に傾聴と観察で、各々の言葉に出来ない思いや意向を汲取るよう努めている。また関係者と相談の上、叶えられる本人の思いや意向は、必ず叶えるようにしている。	今までの生活歴を大切にしていけるよう美容院やお店を利用できるように配慮されています。自己表現ができない方に関しては、本人に寄り添いながら日々の状態を把握し今思っている感情を理解しようとする気持ちをもって接しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方や生活環境の情報収集に努め、なるべく今までの生活スタイルに合わせた暮らしが出来るような支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中から、心身の状況の把握に努め、各々にあった運動やお手伝いを含む作業にて、残存機能の維持に努め、自立度が低下しないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員全員参加のモニタリングで、本人、家族の意向や職員の意見や気づきを反映した介護計画の作成に努めている。	全員参加のユニット会議を通じて、利用者一人ひとりの状況を報告し対応方法の意思統一が図られています。計画を実施した内容が合わない場合は対応方法などを再検討してより良い環境で生活できるように意見を出し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子は個別に記入され、別にバイタルチェック、排泄食事状況が一目で分かる様にしてある。勤務交代時には申し送りとともに記録物で利用者個々の状況を把握出来るようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生きる状況に、柔軟な対応で、その時にベストと考えられる支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園への散歩では、通りの家の方から花をもらうこともある。地域の子供たちは、施設の夏祭りを楽しみにしており、自然と地域に馴染み、安心した生活が送れるようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人や家族の希望を伺い、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医には必要な情報提供や連携で、受診や緊急時の対応に支障の出ないよう努めている。	かかりつけ医は、利用者・家族の意志による選択がなされ、協力医療機関による定期的・状況に応じた診療(往診)も実施されており、結果の報告は家族との共有が図られています。送迎交通費を含め入所時より、詳細な説明が行なわれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師により個々の心身の状況は把握されており、職員の気づきや報告にも適切な指示、指導もされ、かかりつけ医との連携も適切に取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの医療機関の関係者とは早期よりの連携に努め、情報交換や相談などで、入退院の受け入れがスムーズに運ぶよう環境整備に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明をし、同意の上、契約しているが、状況に応じその都度、家族への確認を行っている。終末期には、家族、主治医、看護師、職員で、今後の方針を話し合い、統一された支援を行っている。	「今を大切に生きる」、日常の支援とその延長である看取りにおいて、家族と利用者との通い合う思いを大切に、看取りの支援に繋がっています。医療機関との連携・家族の意向・思いの把握に努めながら、寄り添える援助へ繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは常に目にする場所に掲示されている。看護師による指導も、定期的に全職員に行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の内、1回は夜間想定で実施。また、毎日、各フロア毎に防火設備をチェック。近隣住民の方々にも、日頃より施設を知っていただき、協力を得られるよう努めている。	年2回の共同実地避難訓練(グループ・小規模・有料の各施設)では、事前研修と、合同会議による反省と次回の取り組みについての話し合いが持たれています。火災・自然の災害マニュアルの所有、器具や備品の安全点検も行なわれています。	施設(2. 3階)環境も考慮した安心・安全な暮らしへの向上対策として、近隣の協力や夜間避難の実践等への今後の営み、より迅速な避難への職員技術の向上を目的とする訓練と体制づくりを希望します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今までの生き方や誇りを尊重し、常に人生の先輩として敬い接すると共に、グループホームならではの温かく親しみのある会話を心掛けている。	言葉のつかい方と利用者との関わりにおいて、個々への尊重・生き方(生い立ち・職業)の把握と共鳴を念頭に、職員相互のチームワークによる情報の共有を大切に、温もりある日常の暮らしへと、還元している様子が伺えます。	全職員参加の会議では、講師役を職員が交代で務めています。年度当初の年間研修計画の設定や研修前の課題意識づけと、後の成果・気づき・意欲等の意思確認による支援スキルの向上に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を遠慮なく言えたり、職員の意思が関与することなく自己決定出来る環境の提供に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや、その日に、本人がしたいと思っていることを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣や入浴日には、出来るだけ好きな衣服をご自分で選んで頂いている。理美容も、行きつけがあれば、希望が叶うよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べれない物や形態には栄養士や厨房に情報提供し、個別に対応している。また、月に数回、入居者と職員と一緒に、おやつ作りやランチパーティを開くなどし、買い出しや料理作りを楽しんでいる。	外部産業の活用(ご飯のみ自炊)の中で、厨房会議(栄養士・看護師・職員)を設け、嗜好や食べ易さの協議による食の工夫に努めています。誕生会・季節のイベント食・外食・おやつレクなど、食の楽しみや趣を味わえる献立の提供も行なわれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせる形態、量を提供し、医師の指示のある方には応じた食事や水分の提供を行っている。また、脱水等にも注意を払い、夜間の水分補給にも留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアの支援を行うとともに、口腔内に不具合が生じた際は、本人や家族に報告し、専門医の受診を勧めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやサインを全職員が把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るように努めている。	心地よい支援の糧として、日常生活の触れ合いにおいてキャッチした情報は全職員間で共有し、把握された排泄パターンやサインへの気づきを誘導支援に繋げています。排泄チェック表の活用・昼間のトイレ誘導による健康援助も行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立の工夫、看護師の運動指導、体調管理。また職員による適切なトイレ誘導などで、スムーズな排泄が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々の体調や希望に合わせ、柔軟に対応出来るよう努めている。当日入浴出来なくても、他のフロアでの入浴も可能。	ユニット毎に各日3回の支援が行なわれる中で、個々の今の思いを踏まえつつ、状況の変化に対処した2ユニット共同での支援が行なわれています。個人用の入浴剤や柚子湯の利用など、くつろげる雰囲気づくりへの取り組みの様子も伺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状態に合わせ、散歩や運動、レクリエーションを日中に取り入れ、夜間の安眠に繋がるように努めている。また、寝具の清潔にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の服薬状況が分かるようにファイルされており、薬剤情報も職員全員、周知出来るようにしている。日々の服薬で変化があれば、看護師が、すぐに医師に報告するようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの「昔とった杵柄」を把握し、日常的に活かしている。得意分野や趣味などで、活躍出来る場面を少しでも演出出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より散歩や買い物にて、地域との繋がりを確保している。四季に合わせ、ご家族も参加されたドライブ等も実施。帰宅支援も家族と話し合い、実現出来るよう努めている。	利用者の思いの汲み取りや体調・周囲の環境の把握を大切に、日常の気分転換(散歩・花の水やり)、集団での外食・ドライブやイベント(運動会等)など、職員間での共有を实践に繋ぐ支援に取り組んでいます。家族との触れ合いも支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理でき、お金を所持されている方は、希望に応じ買い物支援を実施。出来ない方には、家族と相談の上、希望に添えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、プライバシーに配慮しながら対応。手紙に関しても、代読や代筆により、可能な限り気持ちに添えるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは清潔を保つのは勿論、季節の花や掲示物、思い出の写真を飾るなどし、室内にいても四季を感じながら、和んでいただける空間作りに努めている。	利用者と職員の製作品や生花、イベント時の記念写真の装飾など、四季の風情や生活の思い出等を大切に、和やかな雰囲気づくりに努めています。安全への配慮では、環境面(廊下の整備・手作りの足置き台等)による安全と健康管理への、気配りの様相も見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのテーブル席は、入居者の相性を考慮し、配置を決めている。窓際のソファでは一人になったり、気の合う者同士が会話を楽しんだり、ゆったりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や身の回りの品で過ごせるようにしている。また清潔に過ごせるよう、本人や家族と相談しながら、環境整備にも努めている。	個々の心身状態や安全性とくつろぎの心地よさへの配慮に取り組んでおり、親しんだ物品の持ち込みや、習慣・癖(持ち込み・帰宅願望)の把握、職員間の情報の共有に努めています。思いの尊重と家族を交えた生活空間づくりへの様子が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内ではなるべく自立での移動や移乗が出来るよう手摺の設置、障害物の排除を行っている。職員は常に見守り重視で、個々の自立と安全に留意している。		